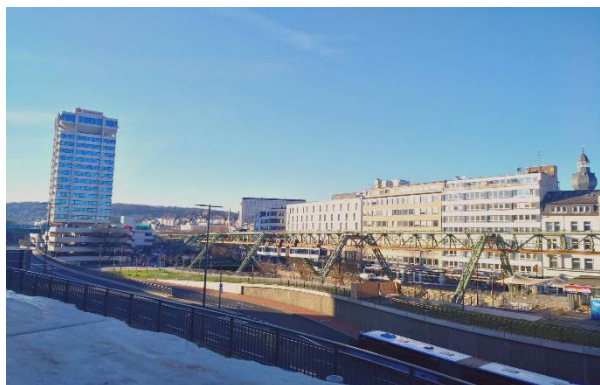


OPU Students 海外留学レポート

Study Abroad Report from the OPU students



プロフィール (Profile)

氏名 (Name) 平尾菜有
所属 (School) 人間社会システム科学研究科
現代システム科学専攻 環境システム学分野

学年 (Grade) 博士前期課程 1 年
留学先 (Name of overseas institution)
ヴッパタル大学 (ドイツ)
留学期間 (study abroad period)
2019/10/01~2020/02/06
記入日 (Date) 2020/02/11

交換留学とは … 本学に在学扱いのまま海外協定大学に留学できる制度です。留学中は本学に学費を納入し、留学先大学の授業料は免除されます。

留学レポート Study Abroad Report

私は 2019 年 10 月 1 日から 2020 年 2 月 6 日までドイツ、ヴッパタル大学に交換留学を行いました。ちょうど、ドイツの大学での冬学期にあたり、約 4 か月間の留学となりました。

ヴッパタルはドイツの西部にある地方都市で、まちの中央を東西方向に川が走り、その北側の山に大学が位置しています。川の上空には懸垂式モノレール (空中鉄道) が走っています。ヴッパタルはこのモノレールで有名な都市です。

人口は約 36 万人 (堺市は約 82 万人) で、人口の約 20% が外国人 (移民) です。ちなみに、堺市の総人口中の外国人比率はわずか約 2% です。ドイツは移民が多い国だというのはニュースなどで知っていましたが、いざ生活してみるとより一層移民の方々が多く住んでいるのだなと感じられました。



懸垂式モノレール (空中鉄道) の駅前とホームの様子。毎週通学で利用していました。

大学では、建築学部への入学が許可されたためランドスケープアーキテクチャーの授業をメインで受講していました。この授業はドイツやヨーロッパ内で行われている気候変動などの問題に対するインフラ整備の事例や、屋上緑化、壁面緑化などの事例を学び、大学のある都市ヴッパタルでのデザイン提案を行うものでした。

日本にいた際にもランドスケープ関連の授業を受けていて、日本の屋上緑化等の事例を知ってはいましたが、この授業を受けて、ヨーロッパでは環境問題の解決に向けた提案をしているデザインが多く存在していることが分かりました。またそれと同時に日本の事例ももっと知り自国のことも把握していないと恥ずかしいなと感じました。

授業内では、ドイツだけでなく世界中のどこでも自分が良いと思った事例を提出するのですが、その点も日本とは異なると感じました。世界中の事例を対象にするという事は、それらの情報を得るために英語やその他言語で調べることが必須で、何らかの事例を探す時に自国日本のばかりを見ていた私からするとそれだけでも新鮮でした。また、ヨーロッパにいと周囲の国々にも足を運びやすいので、海外を視野に入れることが島国日本より容易なのかなとも感じました。



ランドスケープアーキテクチャーの授業の様子

授業を受けるにあたって苦労したのは、授業の登録の制度が分かりにくかった点です。この大学では受講申請の時期が学部によって異なる事があったこと、また建築の気になる授業のシラバス、開講スケジュールは建築のキャンパスにあるポスターを確認する必要があることを私は事前に知りませんでした。確かに私たち交換留学生にはバディが付いていて受講申請等で分からないことがあったら尋ねられる相手はいたのですが、専攻が異なるため私の質問に対し間違った情報を提供されるなど、完全に頼ることはできませんでした。また、建築の学生課のような部署や、気になる授業の先生に連絡を取ってもなかなか返信が返ってこず、結局、質問に答えてくれそうな部署や先生に催促のメールを 5 通ほど送り続けた記憶があります。これによって、返信を得ることができ授業には無事参加することができました。後から聞いた話ですが、ドイツ人の学生も教授等に連絡をして返信をもらうことがスムーズにいかないことはざらにあるから 5 回は送り続けた方が良いと言っていました。これがドイツの常識か、この大学特有のことなのかはよくわかりませんが、もし今後留学で同じような状況になった人は辛抱強く連絡を取り続けてみてください。

週末には周辺の都市に旅行したり、友人とカフェやご飯にいくなどしていました。友人と出かける中で感じたのは、ドイツ人は個人的に私を遊びに誘っても、いざ待ち合わせ場所に行くと初対面の人が 5,6 人いてもおかしくないという事です。友達の友達は友達という感覚で、私の知らない所で他の友人を誘っているのだと思いますが初めはこの感覚になれなくて、何で友達と 2 人っきりで遊ぶ気持ちでいたのに知らない人がたくさんいるの??? と不思議で仕方なかったです。でも、このような遊び方を繰り返していくうちに、自分と面識のある友人はたった 1 人だけだったのに、その日が終わるころには新しい友達ができ、その新しい友達とまた別の日に個人的に遊ぶ約束ができたりしていました。なので、初めは慣れないけれど交友関係が勝手に広がっていくドイツの遊び方もこれはこれで楽しいと思うようになりました。



フランス出身の友人とフランスで新年に食べられるガレット・デ・ロワを作りました。友人から、夏休みなど様々な大学でサマースクールが行われているからまたヨーロッパに勉強しに来てねと言われたので、今後も余裕がある限りチャレンジし続けたいです。



旅行で訪れたパリのルーブル美術館。EU 圏に 3 か月以上留学している学生は、学生ビザの提示で、無料で EU 圏内の様々な施設に入館できる制度があったらしく、無料で入館することができました。



カールスルーエのトラム。日本で思っていたトラムの印象とは異なり、慣れていないと道路を渡るのに危険が伴うなと感じました。この地区では歩行者に対するトラムの危険性などから地下化の工事が進んでいました。

期間としてわずか 4 か月の留学でしたが非常に貴重な経験ができました。M1 で交換留学する人はあまり周囲にいませんでしたが、研究室の担当教授、国際交流課の方々、現地の大学の先生やクラスメイト等多くの方々にお世話になり留学を無事終えることができました。本当にありがとうございました。大学院で勉強できる期間は残り 1 年しかありませんが、留学に行く前より有意義な時間の使い方をして卒業まで勉強していきたいと思います。